

寄稿

# 「日弁連の2015年会務執行方針に物申す」



武本 夕香子 弁護士  
(兵庫県弁護士会)

2015年の日弁連心ある人は、言わずとも会務執行方針が日弁連分かっておられるでしょう。ホームページで公表されています。([http://www.nichibenren.or.jp/activity/policies/policy\\_2015.html](http://www.nichibenren.or.jp/activity/policies/policy_2015.html))。3万6000名余りの日

本弁護士会会員に対する理事としての誠意ある処「基本姿勢」の冒頭で「1万1676名もの会

慢と取られたり、「自分は最多得票数を取り、ほとんどの単位会で多くの票を獲得したのだから、自分のいうことに逆らうべからず」と取られたりしかねませんから、適切な表現ではなかったと思

「基本姿勢」第1項において「日弁連は、井戸やコップの中のような議論に基づく自分たちだけの「正義」を、声高に主張すればそれでよいというものではないと、現在の選挙の時点では、現在の全会員3万6000人余りから2000人余りが少ないとしても

この部分の問題点は、意味が不明確で、全体として誹謗中傷と変わらぬものになっている点です。何が「井戸やコップの中のような議論」で、何が「正しい議論」でしょうか。何かが「自分たちだけの「正義」で何が真正の正義でしょうか。議論や正義に、正邪を区別しようというものは、それほど簡単なことではありません。その判断基準として「市民の利益にかなう」という理解と信頼を得ることができるとは、市民の顔色が「正義」を引込めるのでしょうか。日弁連は、当面は理解が得られなくとも、それが「正義」であるなら弁護士

まず、「基本姿勢」の導入部分は、「分け入っても分け入っても青い山(山頭火)」という、よく引いて最多得票を獲得させる。謙虚な姿勢を示しているところ、次の段落「基本姿勢」の冒頭で「1万1676名もの会

この後者の解釈を、勘ぐり過ぎと言ったことではないでしょう。その後「基本姿勢」も、「独りよがりや原理主義と批判されるような言動は排

「基本姿勢」第1項において「日弁連は、井戸やコップの中のよう議論に基づく自分たちだけの「正義」を、声高に主張すればそれでよいというものではないと、現在の選挙の時点では、現在の全会員3万6000人余りから2000人余りが少ないとしても

先頭に立って市民を説くべきだと思います。司法は、立法や行政と違って多数決支配から零れ落ちたマイノリティの権利を擁護するためのシステムです。その意味で司法は、多数決支配から最も遠い存在であるべきなのです。仮に、司法が「市民からの理解と信頼を得られない」と言うことをやめてしまえば、司法が司法としての機能を果たすことはできません。多数派の声は、もと

し方であると考え、筆を執ることにしました。述べたいことは、たく

「基本姿勢」第1項に

「基本姿勢」第1項に

「基本姿勢」第1項に

## 第1 基本姿勢について